

学校教育目標

知力、心力、体力を備え、主体性を持って積極的に生きていく力を身につけた、これからの社会に貢献できる人材の育成をめざす。

重点目標

- ・中高大連携教育の推進
- ・積極的に意欲を持って学習できる生徒の育成
- ・生徒に応じたきめ細やかな教育と進路の確保
- ・国際感覚を身につけた生徒の育成
- ・教育の情報化の推進

領域	評価の観点	評価項目	実践目標	2022年度	2023年度
学校運営	開かれた学校づくり	家庭や地域への情報発信	学校ホームページ、情報通信、育友会新聞を活用して情報を提供する	3.9	4.0
		学校公開の取り組み	公開授業、オープンスクール・オープンハイスクールの実施	4.0	4.1
		地域との交流	区、地域主催の行事に参加するとともに運営の手助けをする	3.5	3.5
		育友会活動	育友会の学校行事参加協力ならびに研修会の実施	3.8	3.9
	学校運営全般	教育目標達成	教育目標達成に向けて教員が共通理解し、意欲的に取り組む	3.5	3.6
		校務分掌	教育活動が組織的に機能するよう配慮する	3.5	3.6
		各種委員会機能	分掌間の連携を取ると共に、各種委員会の開催により機能を調節する	3.5	3.5
		学年学級経営	共通認識を持った学級運営を学年で調整し、適切な教育活動を図る	3.8	3.9
	生徒指導	生徒指導方針の共通理解と指導体制の確立	生徒指導方針を明確にし、教員間で共通認識を持った形で指導に当たる	3.7	3.6
		基本的生活習慣の確立	挨拶、時間厳守、言葉遣いなど中学・高校生活にふさわしい行動と身なりができる生徒の育成	3.7	3.7
		交通安全指導	通学マナーを守り、交通安全を心掛けるよう指導し、登下校指導を行う	4.1	4.1
		生徒理解の取り組み	個別相談を定期的に行う。パソコンを使った情報収集を徹底する。カウンセラーによる教育相談	3.9	4.0
		地域・関係機関との連携	地域、諸機関との連絡を密にし、生徒の出身校(中学校・小学校)とも情報交換し、連携した指導を行う	3.5	3.5
	進路指導	進路指導体制の充実	3年間を見据えた年間計画を作成し、継続的に組織的に進路指導する	3.6	3.5
		職業観・勤労観の育成と進路意識の向上	外部講師による進路講演会を開催し、生徒の職業観・勤労観を高め、進路通信などを通じて意識を高める	3.6	3.6
		進路に対応した学力の育成	早朝学習や受験講座、長期休暇補習、学習合宿によって必要な学力の向上をめざす	3.7	3.6
		個々の生徒に適した指導の充実	個別面談、進路調査により、生徒の希望、適性を知り、個々に適した指導をする	3.8	3.8
	教職員の資質向上	実践的指導力の向上	年間を通して公開授業を実施し、授業における指導力の向上に努める	3.4	3.5
		計画性を持った研修の実施	各種校内研修を実施し、校外研修にも参加できる体制を整える	3.5	3.6
		社会の変化に対応した教育観の育成	外部情報を積極的に取り入れ、各部会において積極的に社会変化に対応した教育システム作りを行う	3.6	3.5
	危機管理体制の整備	実効ある学校マニュアルの策定	学校の実情に応じた危機管理マニュアルを作成し、内容を周知徹底する	3.3	3.5
		家庭・地域・関係機関と連携した危機管理体制の推進	家庭・地域・関係機関と連絡を密にし、必要な情報を得、対策を検討する	3.7	3.6
		実践的な安全教育への取り組み	全校集会、防災訓練等を実施する	3.0	3.2
教育課程	基礎・基本の定着	生徒の学力の把握と評価基準の設定	定期考査並びに実力試験の実施によって学力を把握し、それに基づいた評価を行う	3.9	3.9
		達成感ある指導方法の確立	達成感が味わえる授業の工夫を行う	3.6	3.7
		学習姿勢の育成	自ら学習計画を立て意欲的に学習に取り組む姿勢を養う	3.7	3.6
	個に応じた学習指導	指導形態の工夫	選択授業や少人数教育による学習能力に応じた指導を行う	3.6	3.7
		評価方法の創意工夫	各教科に応じた評価基準を作成し、共通認識のもとに評価点検を実施する	3.8	3.6
	自学自習の育成	体験的・問題解決的な学習の展開	体験的学習、問題解決学習が効率を上げる教科においては積極的に取り入れ実践する	3.7	3.6
		興味・関心を高める指導	生徒が興味をいだく授業を工夫し、積極的な学習態度を養成する	3.8	3.6
	総合的な学習の時間	指導体制の確立	担当教員の連絡を密にし、目的に沿った展開を工夫する	3.7	3.7
		目標達成	学習した内容の発表の場をつくることによって目的が達成されたか確認できるようにする	3.6	3.6
	社会性を育てる特別活動	人とのかわりを重視した活動	社会人講師による授業計画により社会を実感させる	3.4	3.5
	特別活動	部活動の活性化	生徒に関心を持たせるとともに積極的な参加意識を養う	3.8	3.9
		生徒の主体性を育む学校行事の確立	文化的運動的感性を育てるような行事を工夫し、主体的に参加できるよう指導する	3.8	3.9
		ホームルーム活動の活性化	計画的なホームルーム活動を立案し、生徒が主体的に考える時間とする	3.5	3.5
	体力・運動能力の向上	教育活動における体育活動	体育大会、球技大会などの体育行事を工夫し、生徒が達成感を味わえるようにする	3.8	4.0
課題教育	防災・安全教育	教員の防災教育に係る指導力・実践力の向上	防災訓練を立案し、教員が共通認識を持つ。教員の救急講習や研修を行う	3.2	3.3
	人権教育	人権教育推進体制への取り組み	教員、生徒に対して研修会を立案し、人権について考える機会を設ける	3.3	3.2
	情報教育	情報活用能力の育成	生徒の正しい情報活用能力の育成に努める	3.7	3.6
		情報機器を使った授業の推進	教科や学校生活での日常においてコンピューターを使用する機会を工夫する	4.1	4.1
	国際理解教育	他国の歴史や文化の理解	修学旅行、語学研修を通じて外国の歴史・文化を学ぶ	3.7	3.9
		交流事業の推進	留学制度の充実、学校交流の実施を積極的に行う	3.6	3.8
	環境・福祉教育	福祉体験活動の充実	福祉施設などへのワーキング活動参加や総合的な学習の時間で展開を組み立てる	3.3	3.4
		環境教育の充実	環境への関心を高め、環境学習をいろいろな学習の場で組み立てる	3.5	3.5
	学校の個性化・多様化	特色ある教育課程の編成	生徒の関心、進路によって教育課程を工夫し適切な選択を指導する	3.7	3.6
中高大連携教育の推進		附属中学校・高等学校の利点を生かし、生き方、進路における学習活動を大学と共同で組み立てる	3.6	3.7	
				3.63	3.66